

(行政視察・政務活動・議員研修) 報告書

平成28年 2月 2日

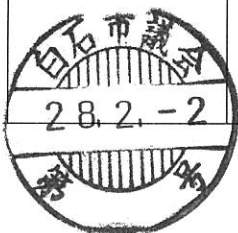
白石市議会議長 佐久間 儀 郎 殿

議員氏名 沼倉 啓介



下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成28年 1月18日(月) ～ 1月 19日(火)
調査・研修先	市町村議会議員特別セミナー 市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)
調査事項 (研修事項)	『 自治体経営の課題 』 講師4名の方の講演により課題解決に導いて頂く取り組みの実践
対応者・講師等	
1月18日(月)	『これからの政治の行方～2016サミットと参議院選挙の展望』 講師 読売新聞メディア局編集委員 伊藤俊行氏 2016年の政治の展望, 安倍政権の成果と課題, 急務の 統治機構改革の3点について新聞メディアの編集委員としての 観点から ● 参院選と相性の悪い政権与党 ● 日本でのサミットは政権に不吉 ● 目白押しの外交日程など ● 同日戦は自民党に有利か ● 18歳投票権と共産党の国民連合政府構想の効果 ● 日露平和条約締結への安倍首相の意欲 ● キーワードはポピュリズムと憲法改正 ● 政治技術と正しい政策のバランス ● アート交代させた新人比率の高さ ● 相対得票率と絶対得票率/選挙よりデモの若者 ● 高すぎる国政選挙の頻度など



1月18日(月) (主な講師の話の中から抜粋下記に列挙してみる)

- ・ 政権にとって過去の政治の移り変わり方を考えると、参議院選挙は縁起が悪い。
- ・ 特に衆議院選挙を大勝した後の参議院選挙で与党にお灸を据える形になっている。
- ・ サミットは政権にとって不吉。
なぜかサミットの議長になった宮沢、森、福田閣総理は後に退陣した事からも推し量れる、決して浮揚にはならない。
- ・ 同日選挙は自民党にとって有利か？
同日選挙は安倍総理の持論ともいえる。つまり同日選挙を実施し勝てば3年間は選挙がなく、憲法改正がしやすくなる。
- ・ 参議院選挙で負けても政権交代はない。ねじれがなければ良いと考えているのではないか？
- ・ 投票率が上がると無党派の票が動く可能性がある。
- ・ 安保法制などをみても国会前のデモは若者が多かった。
特にシールズが動くと政権は不利になる。
- ・ 自民党は公明党頼み、投票率が上がると組織選挙をする。
自民党は不利になる。
- ・ 安倍総理が最もやりたいのは憲法改正ではなく日露平和条約締結。
自分の任期内に憲法改正をやれば窮屈になり同日選挙はないと考える。
- ・ 今の小選挙区制では1/4の得票で3/4の議席をつくる。
- ・ 小選挙区制は一刻も変えるべき、左記は政権交代可能な2大政党制。しかし多党化を押しえられない。
- ・ 課題は民主主義の仕組みを知るべし、首相が1年ごとに戻る可能性大等など・・・。

(質疑の中で)

政治の行方と新聞のやくわりについて

若者相手に新聞を使って講義をしている、若者は新聞を取っていない。新聞の役割は、読みたくない内容まで入ってくる、世の中で起きている事に気付く、新聞は言論が多用化している、それは新聞が記者主張をしている事から来る
出来る対応はバランスの良いニュースを集める事にある。

1月18日(月)

(感想)

新聞記者の方らしく、物事に対する切込みが良い。
しかし、読売新聞社のスタンスを理解した上でないと述べられている事が単に氏所属の社の広報にしかとらえられないと感じる場面に出会ったりもした。

『 今後の日本経済の展望 』

講師 千葉商科大学学長 島田晴雄氏

アベノミクス4年の評価

第一次成長戦略『日本再興戦略』

第二次成長戦略

(講演の話しから)

第一の矢は 成功、インフレマインドになっていない、
円安になっているので

輸入が増えて2002年に下がり始めた原油価格が2003年に
40ドル、2008年に148ドルの値をニューヨークでつけた

第2の矢 今年は3%成長続けても……。

第3の矢 第1 破壊のリスク

第2 国際暴落のリスク

経済成長すればすべて解決

地方創生……安全保障と同じ国、国民を思う、地方に
アイデアを出し、メリハリを出してもらおう←資金は出す。
地方が良いアイデアを出したら金を出すメガトレンドが
世の中を変えている。

一億層活躍……子育てしやすい、介護しやすい

皆さんが喜ぶようにひとつやります。

1月18日(月)	<p>(感想)</p> <p>講演内容が多岐にわたりついていくのがやっと、話の内容は個人的な事柄が軽妙に飛び出し、参考になるより聞いていて面白いと感じさせられた講演でもあったように思えた。</p>
1月19日(火)	<p>毎日新聞社論説委員 人羅格氏</p> <p>『 地方創正と地方議会の役割 』</p> <p>地方議会を取り巻く厳しい環境 住民の期待度とのギャップ 政策条例の新しい動き 住民に近づく運営とは 政務活動費問題 地方創正と地方議会</p> <p>(講演の話しから)</p> <p>27年度補正予算及び28年度当初予算で併せて2000億円 交付金が配分される。 なぜ地方議会の議員が住民から遠く感じられているのか？ 住民から観ると議員が思っている以上に何をしているか 分からない。 主張の歯車が回っているのは見えるが地方議員の歯車が 回っているのかが見えてこない。</p> <p>例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議会基本条例・・・住民との距離感を縮める←間違いでない ・ 岩手県滝沢市・・・住民参加，通年議会，徹底している。 フォーラムなども10回以上開催している。 お手盛りではなく，住民との話し合いをするのが重要 ・ 地方議会役割 <ol style="list-style-type: none"> 1. 主張の監視チェックが大事 2. 住民は条例をつくってどのように 地域をつくっていくのかが観たい←残念 状況からの脱却独自に政策条例をつくるの は地方自治に触れる。(予算をついた)

1月19日(火)	<p>例えば 財政責任条例（横浜市）、いじめ防止条例（大津市） 乾杯条例</p> <p>質疑答弁 政務活動費←説明できるか出来ないかがポイントになる 合併した自治体選挙のあり方←合併したところは候補者 について地域割りを 残した方が良い。</p> <p>質問 10月に総合戦略をつくった市町村は一生懸命やっている 答弁 国は熱心ではない</p> <p>質問 総合戦略と総合計画が一緒になっているが総合計画が 上位であると言っているが 答弁 個々の機関対応で議論が進んで言い</p> <p>地方に手を挙げてもらってと考えているが国が真剣に考えて 地方に分散を考えてないと、なかなか進まない 総合戦略は地方の意志←調整整合が必要</p> <p>(感想) 原則的事項の概念がはっきり確認を取れたものであったと感じる</p> <p>講師 中央大学教授 佐々木信夫氏 『 地方議会をどう変えるべきか 』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2000年改革後の二元代表性 2. 日本の地方議会の役割 3. 政策過程・・・政治の役割, 行政の活動 4. 議会の問題点～首長との関係 5. 地方議会の改革のポイント 6. すぐやれる地方議会の改革 <p>氏の話の内容は2016年講談社新書の『地方議員は変わるか』 を拝読すれば一目である旨を講演の中で繰り返されたので後に拝読 する事とした。</p>
----------	---

1月19日(火)

講演内容骨子 地方議会が変わらなければ地方は進化しない

1. 人口減少に於ける地方行政体制のあり方

100万都市と近隣自治体と連携サービスを構築

2. 自治体のガバナンスのあり方

- ・自治体の舵取り, 中長期的方向性を示す
- ・内部統制をどう進めるのか
自主性を高める改正が行われている
- ・地方議会のあり方
- ・監査のあり方(議会選出監査委員を置かなくてもよい)
- ・行政訴訟のあり方
- ・府県制度・・・見直しは触れない
- ・立法権の分権化・・・条例で決める事を増やす
(自己責任のもと)
- ・地方自治体の理解・・・団体自治と住民自治から
成り立っている。

地方議会の4つの役割

1. 自治体の公法人の首長は意思決定者のチェック機関
2. 執行権の監視者
3. 条例・・・法的手段
4. 民意の集約(地区別に報告会をする)

政治の役割

- ・政策過程の議論は口でしかやられていない
- ・地方の事は地方で決める
- ・自己決定, 自己負担のもとに実施

結果を評価・・・政治の役割

例えば, 決算委員会で政策評価をする。

人口減の中でこの事業を続けていくのか←政策評価

(感想)

この二日間を通じての話の中で感じたのは, まず当たり前の事を実践する事が解決策の大きな選択肢であるのではと感じさせられた。又, 懇親会を通じいろんな地域の議員とも交流し, 情報交換させて頂いた事はとても有意義なものであった。

以上